

## 秋季講演会と技術発表会開く

建機協中部支部関係者約110人が参加



日本建設機械施工協会  
中部支部(小川敏治支部

長)は11月30日、名古屋市内で秋季講演会と技術発表会を建設会社、コンサルタント会社、機械設備会社など関係者約110人が参加して開催した  
写真。

冒頭、小川支部長が「厳しい状況が続いているが、工夫してきた施工技術をインフラ整備に生かしていこう」とあいさ

つした。秋季講演会では、国土交通省中部地方整備局中部技術事務所の青山秀樹総括技術情報管理官が「総合評価落札方式等におけるNETISの有効活用」を講義した。また、技術発表会では日本車輛製造機電本部開発技術部の奥村高好氏が「大型アースドリル機ED8200Hの開発」、不動テトラ中部支店技術部の兵頭洋部長が「超軟弱で高被圧な地盤に回転鋼管

杭で挑戦(伊豆縦貫大場南高架橋下部工事)」、キャリアオ技研の富田茂社長が「無人飛行探査ロボット(SARAS)による探査活動報告」、若築建設三重営業所作業所の渡部耕平工事主任が「情報化施工による土工実施にあたって」、キャタピラーウエストジャパンスAM/DF部の藪本尚士氏が「遠隔操作(ラジコン)式分解型油圧シヨベル」を紹介した。